横浜市立葛野小学校

平成２９年度　学力向上アクションプラン

１ 学校の状況と地域の実態

（１）　特別な教育的支援が必要な子どもへの対応として、学習内容に応じて TT や少人数、個別学習などの指導体制を整備している。

（２）　教員の指導力を向上させるために、重点研究やメンターチームを組織して共同で研究にあたっている。

（３）　学習支援・環境整備・安全確保などの活動で地域・保護者ボランティアにご協力頂き、学校・家庭・地域の連携による学習を推進している。

２ 今後３年間の方向（平成２８年度策定「中期学校経営方針」より）

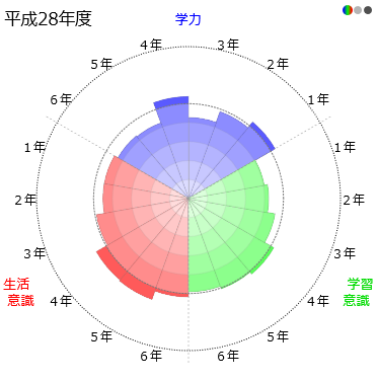
学力向上に関する指導の目標・方針　（平成３０年度末の姿）

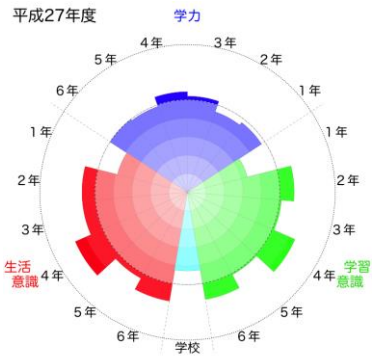
○　児童自らが目的意識をもち主体的に取り組みながら思考力、判断力、表現力等を高めると同時に学ぶ楽しさや意義を実感できます。

○　特別な支援が必要な子どもについて、個別の教育支援計画や個別の指導計画を立て、すべての教員が関わりながら、一人ひとりに合った指導が行われています。

○　学年研究や教科研究会、メンターチーム研修を通して、実践的な研修・研究を組織的に行っています。

３　横浜市学力学習状況調査等からの平成２８年度の実態把握





（１）学力の概要と要因の分析

全体としての学力は昨年度と比較するとやや下がっている。教科ごとに見ると、各学年において違いはあるものの、国語と算数においては平均すると昨年度とほぼ同様の水準であった。記述問題に関して、言葉が足りないため誤答となる設問が多かった。大切なことを落とさずに読み取る力を、各教科の特性に合わせてさらに丁寧に指導する必要がある。

理科と社会において、特に知識・理解で市平均と比べて下回った。実験や調査活動で学んだことを日常の事象と比較して確かめたり、生活場面で活用して知識をさらに深めたりできる機会を増やしていく必要があると考える。

（２）教科学習の状況

○ 国語科：話の内容を正確に聞き取る力は概ね市の平均である。一方、文章での表現力や読解力に課題がある。

○ 算数科：知識・理解は市の平均と同様の学年が多い。一方、数学的な考え方については、課題がある。
設問の内容を正確に理解して問われていることを表現する力を付けていく必要がある。

○ 社会科：４学年（現５学年）を除き、「知識・理解」「思考・判断・表現」の観点で市の平均を下回っている。

○ 理　科：学年によりばらつきがあるが、思考・表現力が全体として課題である。

（３）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

生活習慣においては、７～９時間という適度な睡眠時間をとっている児童が、昨年度から１０％以上伸びている。「自分にはよいところがあると思いますか」という問いに対して、特に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と肯定的に自分を考えることができていると児童が多く、特に高学年で９割を超え、市の平均と比較して１０％以上高い。生活習慣の改善、自己肯定感を高める教師側の支援や家庭との連携、ルールブック等による学校や学級での指導の統一化を図ることで、年齢を重ねるごとに低下傾向にあるこれらの子どもの意識が、市全体の平均よりも高い水準を維持していると考える。

児童の学習意識に関しては、学年によって差はあるものの、ほとんどの教科において「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童が８割を占める。特に少人数学習を導入している４・５年生（現５・６年生）については、市平均を大きく上回っている。習熟度にあった学習の進め方や一人ひとりが意欲的に学習する環境づくりを工夫してきた成果だと考える。

生活意識調査によると、「授業は分かりやすいか」「ノートを工夫しているか」については、学力に課題がある学年について減少傾向はみられるものの、概ね市の平均と同様となっている。教師側の日々の授業改善により、学習意識の向上は図られているものの、より児童が主体となって学びを進めることのできる学習内容、授業形態などを工夫していくことが必要である。また、学校以外での学習（家庭学習、塾）時間について、高学年になるほど個人の差が広がり、学力面においても取組結果が大きく反映し、教師が考えている以上に、結果として全体的な学力の低下につながったと考えられる。

４ 平成２９年度　目標と具体的方策

平成２９年度　目標

『　学習の楽しさやよさを実感できる子どもの育成　』
～ 自らの学びを生かし学び進める姿をめざして ～

（１）学校組織としての共通の取組

○　子どもが必要感をもって主体的に学習を進め、学ぶ楽しさや意義、達成感を実感できるような授業づくりを行う。

○　子どもが自らの学びを振り返り、見つめ、次の学習や日常の生活や事象につなげていけるような学習環境、単元デザインの工夫を行う。

○　多様な考えを比較・検討し、深化するための手立てや工夫を行い、思考力、判断力、表現力を高める。

（２）学年の取組

１学年

○　相手を見て聞きながら、互いの考えを伝え合い、聞いた内容の感想を述べたり、書いたりする活動を取り入れる。

○　具体物を用いた活動を通して、数の感覚を豊かにしたり、言葉や図、式、表などに表したりして生活に生かせる活動を取り入れる。

２学年

○　互いの考えを伝え合い、自分の考えと比べながら聞き、感想を述べたり書いたりする活動を取り入れる。

○　身の回りにあるものの長さや水のかさについて、およその見当をつけたり、単位を用いて測定したり表したりする活動を取り入れる。

３学年

○　児童の発言に対して投げかけたり問い返したりすることを意図的に行い、思考力、判断力、表現力を高める。

○　実験や観察、調査したことを、比較・検討する活動を大切にするとともに、学習後においても日常場面で適宜取り上げていくようにする。

４学年

○　児童の発言に対して投げかけたり問い返したりすることを意図的に行い、関連的にとらえたり要約したりする力を高める。

○　実験や観察、調査したことを、比較・検討する活動を大切にし、学習後においても日常場面でも関連させ考えを深められるようにする。

５学年

○　互いの考えを伝え合い、聞いた内容に対して助言や提案をする活動を取り入れる。

○　単一図形及び複合図形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動を取り入れる。

６学年

○　自分の考えをもち、互いの考えを伝えあい、計画的な話合いや討論をする活動を取り入れる。

○　図形や量の感覚やイメージを豊かにするために、具体物を用いて考えたり、説明したりする活動を取り入れる。

個別支援学級

○　個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づき、発達段階に応じた学習を行う。

○　体験的な学習を多く取り入れ、具体的な活動を通して、実生活に生きる力を養うようにする。

○　学習教材や教具を工夫し、子どもが楽しく意欲的に学習することができるよう指導を工夫する。また、実態に合わせ、家庭と連携して、家庭学習にも取り組むようにする。